

科目名・単位数	I T利用監査 2単位	科目分類	情報・統計系	応用・実践科目
配当年次	2年次・秋学期・昼	担当教員	石島 隆 (いしじま たかし)	
履修形態	選択			
授業概要	<p>今日の企業は、I T (情報技術) を利用して業務処理を行うとともに、e コマースの展開など営業面でも I T を積極的に活用している。特に大企業においては、事業の多様化・グローバル化、取引の複雑化と件数の増大により、I T の活用なくしては企業の存続・発展が危ぶまれる状況である。このような企業側の変化に対応して、監査人側でも監査実務において I T を活用してデータ分析を行うことが必須となっている。</p> <p>そこで、本授業では、まず、I T 利用監査の基礎知識として、企業における会計情報システム及び業務管理システムの機能の構成、データ構造、I T を利用した内部統制機能について学んだ上で、リスクアプローチに基づく財務諸表監査のプロセスにおける I T を利用した監査手続の進め方とツールの機能を学ぶ。その後、事例を用いて、財務諸表の虚偽表示リスクに対応した監査目標を特定し、監査手続の中に I T を利用した監査手続をどのように組み込んでいけばよいかについて学ぶ。</p>			
到達目標	リスクアプローチに基づく財務諸表監査のプロセスを理解し、財務諸表の虚偽表示リスクに対応した監査目標を特定し、I T を利用した監査手続が作成できるようになることを目標とする。			
授業方法	講義形式70%、演習・実習形式30%とする。演習・実習形式については、事例を用いた I T を利用した監査手続の作成演習、実習用データを用いたデータ分析の実習を行う。			
事前・事後学習	<p>第2回以降については、次回の教材を事前に配付するので、事前に読んで、疑問点・不明点を洗い出しておくこと。特に事例を用いる回については、事例の資料を熟読しておくこと。(90分)</p> <p>また、各回の講義の終わりに行う「今回のまとめ」に基づいて、重要論点について復習すること。(90分)</p>			
成績評価の方法	<p>期末考査 (レポート) 40%</p> <p>講義・演習・実習における取り組み方 (授業への参加・貢献度) 60%</p>			
フィードバックの方法	事例を用いた I T を利用した監査手続の作成演習、実習用データを用いたデータ分析の実習とともに、演習・実習の結果について、授業の中で解答例と比較して解説を行う。			
履修上の注意	パソコン及びE x c e l の基本的操作ができること。			
授 業 計 画				
第1回	< I T 利用監査の概要とその有用性および利用局面 > I T 利用監査の概要とその有用性および利用局面を理解するために、I T 利用監査の種類、準備と実施のステップ、データへの依拠リスク、データの検証の意味、I T 利用監査の品質管理などについて学ぶ。			
第2回	< I T 利用監査に必要な I T 知識 (1) 会計情報システムの全体像 > I T 利用監査に必要な I T 知識として、企業全体の情報システムにおける会計情報システムの位置づけ、会計情報の概念と会計情報データベース、会計情報システムが具備すべき要件などについて学ぶ。			
第3回	< I T 利用監査に必要な I T 知識 (2) 総勘定元帳システム > 会計情報の処理プロセスの基本である総勘定元帳の作成に関する処理プロセスについて、データが加工・集計されていく過程を具体例で示すことによって、総勘定元帳システムの機能、データ構造、自動仕訳などについて学ぶ。			
第4回	< I T 利用監査に必要な I T 知識 (3) 販売系システム > 販売系の業務管理システムについて、新規取引、販売促進、受注、出荷、売上計上、請求、入金という業務プロセスに沿って、パッケージソフトの機能、データ構造、I T を利用した内部統制機能について学ぶ。			

第5回	< I T利用監査に必要な I T知識 (4) 購買系システム> 購買系の業務管理システムについて、仕入先選定、発注、検収、仕入計上、請求書照合、支払という業務プロセスに沿って、パッケージソフトの機能、データ構造、 I Tを利用した内部統制機能について学ぶ。
第6回	< I T利用監査を利用した監査業務の全体像、入手したデータの信頼性の検証> I T利用監査業務の全体像について、①目的の設定と計画の策定、②監査先との合意、③対象データの特定と依頼、④データファイルの入手、⑤データ分析、⑥レビュー、⑦報告、⑧監査調書の保存という流れに沿って学ぶ。また、入手したデータの信頼性を検証するための手法 (件数・金額の合計、データの型の検証、データの漏れや重複の検索など) について学び、実習用データを用いた実習を行う。
第7回	<データのプロフィール分析> 入手したデータ全体の傾向分析の手法として、区分コードなどによる分類化、クロス集計、数値の範囲による階層化、債権・債務・在庫などの年齢調べについて学び、実習用データを用いた実習を行う。
第8回	<データの抽出、並べ替え、結合> 入手したデータファイルからの特定の条件のデータの抽出、特定の順序による並べ替え、複数の関連するファイルを結合する手法について学び、実習用データを用いた実習を行う。
第9回	<統計的サンプリング> 監査サンプリングの基礎的な概念を解説した上で、統計的サンプリングによる試査の対象 (科目、残高、取引明細、取引先など) の抽出方法について、レコード単位サンプリングと金額単位サンプリングの方法を学ぶ。
第10回	<財務諸表監査の監査手続と I T利用監査の適用> 財務諸表監査における内部統制の運用テスト、実証手続としての分析的手続及び取引・残高の詳細テストにおける I T利用監査の適用方法について、虚偽表示リスクへの対応の観点から、その全体像と具体的な手法について学ぶ。
第11回	<販売取引プロセス及び売上債権の監査手続への適用> 販売取引プロセス及び売上債権の監査手続における I T利用監査の適用方法について、事例を用いて監査目標を特定し、 I Tを利用した監査手続の作成演習を行う。
第12回	<購買取引プロセス及び仕入債務の監査手続への適用> 購買取引プロセス及び仕入債務の監査手続における I T利用監査の適用方法について、事例を用いて監査目標を特定し、 I Tを利用した監査手続の作成演習を行う。
第13回	<棚卸資産の監査手続への適用> 棚卸資産の監査手続における I T利用監査の適用方法について、事例を用いて監査目標を特定し、 I Tを利用した監査手続の作成演習を行う。
第14回	<不正会計に対応した監査手続への適用> 不正会計に対応した I T利用監査の適用方法について、事例を用いて監査目標を特定し、 I Tを利用した監査手続の作成演習を行う。
第15回	<総まとめ> 本授業の総まとめとして、財務諸表監査における I T利用監査について、監査の局面ごとの利用方法を整理する。
テキスト	授業の際に教材を配付する。
参考図書	『Excel による不正発見法 CAAT で粉飾・横領はこう見抜く』村井直志著 (中央経済社) 『取引別・勘定科目別 虚偽表示リスクを見抜く監査ノウハウ』手塚仙夫著 (中央経済社)